

令和元年度第1回春日井市地域公共交通会議議事録

1 開催日時 令和元年5月27日(月曜日)10時00分～11時20分

2 開催場所 市役所12階大会議室

3 出席者

【会長】	中部大学 工学部都市建設工学科教授	磯部 友彦
【委員】	春日井市 市長	伊藤 太 (代理 堀尾 朋宏)
	名鉄バス株式会社	
	営業本部運行部運行課長	吉岡 実
	近鉄東美タクシー株式会社	
	運輸部長春日井営業所長	相川 敏行 (代理 下屋敷 輝樹)
	公益社団法人愛知県バス協会専務理事	小林 裕之
	愛知県タクシー協会 春日井支部長	奥村 薫績
	春日井市区長町内会長連合会 理事	足立 弘之
	春日井市民生委員児童委員協議会 会計	馬上 貴美子
	春日井市老人クラブ連合会 副会長	金田 辰男
	春日井商工会議所 副会頭	木野瀬 吉孝
	春日井市婦人会協議会 書記	伊藤 月美
	国土交通省中部運輸局愛知運輸支局	
	首席運輸企画専門官	上井 久仁彦
	愛知県交通運輸産業労働組合協議会 幹事	熊谷 浩明
	愛知県春日井警察署 交通課長	馬場 信幸
	愛知県都市整備局交通対策課 主幹	渡邊 重之
	春日井市建設部 道路課長	荻谷 健生 (代理 内田 隆之)
【事務局】	春日井市まちづくり推進部都市政策課	
	課長	森 浩之
	課長補佐	三浦 晶史
	課長補佐	松浦 武幸
	主査	矢川 将史
	主査	花井 輝年
	主任	米山 創
【報告者】	高蔵寺ニュータウンセンター開発株式会社	

4 議題

- (1) 協議事項 1 実証実験について
- (2) 報告事項 1 かすがいシティバスの契約更新について
- (3) 報告事項 2 サンマルシェ循環バスの見直しについて

その他

5 会議資料

- ・令和元年度第1回春日井市地域公共交通会議次第
- ・春日井市地域公共交通会議委員名簿
- ・令和元年度第1回春日井市地域公共交通会議 配席図
- ・資料1 春日井市地域公共交通会議設置規則
- ・資料2 スケジュール
- ・資料3 実証実験について
- ・資料4 かすがいシティバスの契約更新について
- ・資料5 サンマルシェ循環バスの見直しについて
- ・資料6 春日井市都市計画マスタープラン【素案】(抜粋)

6 議事内容

- (1) 協議事項 1 実証実験について

【米山主任】

資料1から3について、説明を行った。

【磯部会長】

委員に意見を求めた。

【上井委員】

1点目は今回から春日井市地域公共交通会議設置規則を改正し、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律(以下「活性化再生法」という。)と道路運送法の2つの法律に関する会議となったが、春日井市地域公共交通会議委員名簿(以下「名簿」という。)には、道路運送法施行規則の表現しかないため、困惑する。

2点目は、春の実証実験の周知が不足していたと思われるため、今回の夏の実証実験はどのような点に工夫をして、周知を行うのか。

【松浦補佐】

1点目については、次回会議までに名簿を整理する。また、本日の春日井市地域公共交通会議(以下「会議」という。)は活性化再生法の委員の要件を満たしている。

2点目については、春休みの実証実験のために実施したPR活動は新聞社に掲載依頼を行い、近郊版に掲載された。また、全中学校の生徒に中学生カードと併せてPR用のチラシを配布した。

夏休みの実証実験は春休みの実証実験で行ったことに加え、夏休み期間の様々なイベントに行く際にバスを利用してもらう方法を検討している。

周知方法について、何かアイデアがあれば聞きたい。

【伊藤委員】

かすがいシティバスの乗り換えはすごく時間がかかる。

利用者の増加につながるのは、1日乗車券の100円割引より、1乗車につき100円割引ではないか。

普段乗車している人は、病院などの往復が多いため、1日乗車券の100円割引では、同じ価格になり利用されないと思う。

【松浦補佐】

1日乗車券を割引する実証実験は、春の実証実験の期間が短かったため、乗り継ぎ需要があるのか確認するために実施する。

また、かすがいシティバスに1周あたり2時間以上かかる非常に長い路線があることから、この改善方法を検討する上で、路線の短縮なども含め様々な方法を検討したいと考えている。

その中で、路線を短くした際に、一部の利用者に乗り継ぎが必要になる場合も考えられるため、今回の1日乗車券に関する実証実験期間を長くすることにより、往復料金で乗り継ぎができる制度の運用の課題など検証したいと考えている。

【磯部会長】

今後、様々な実証実験を行い事務局の方で検証したい内容を確認していかなければならない。

【木野瀬委員】

実証実験はやる意味があると思うが大々的に周知する方がよい。

土日の運行路線を変えてみるだとか、特別な企てを実施してみると違った効果を検証できるかもしれない。

【磯部委員】

事務局で一度検討してはどうか。

委員に意見を求めた。

【馬上委員】

実証実験の目的が普段公共交通を利用しない人への利用啓発であるならば、そこに焦点を絞り、市内全中学校に中学生カードを配るのではなく、何校かモデル校を決めて、活動してはどうか。

数値などを検証したい実験とは、目的が変わってしまうかもしれないが、目的を絞らないと拡散し効果が上がらないと思う。

PR活動としては校長会などで依頼してはどうか。

【磯部会長】

利用啓発の効果を上げるには、実証実験にめりはりをつけた方がよい。

事務局に発言を求めた。

【松浦補佐】

春の実証実験の周知方法は市内中学校の全生徒に中学生カードを配布しただけでなく、校長会、教頭会で説明した。

次回以降の実証実験については、委員の皆様から意見を聞きながら考えていきたい。

【磯部会長】

実証実験は本格的に実施すると、普段バスを利用している人に迷惑をかける恐れがあり、路線やダイヤの変更などは大きな混乱を起こしかねない。事務局としても、制約がある条件の中で、効果があるものを検討してほしい。

重点地域や重点中学校を設定するなど、いろいろな方法を検討してほしい。

夏休みの実証実験については、原案のまま可決としてよいか。

【一同】

異議なし

(2) 報告事項1 かすがいシティバスの契約更新について

【米山主任】

資料4について、説明を行った。

【磯部会長】

委員に意見を求めたが意見が無かった。

(3) 報告事項2 サンマルシェ循環バスの見直しについて

【磯部会長】

高蔵寺ニュータウンセンター開発株式会社（以下「センター開発」という。）に説明を求めた。

【センター開発】

資料5について、説明を行った。

【磯部会長】

この件は、センター開発がサンマルシェに買い物に来る人のために運行しているサンマルシェ循環バス（以下「循環バス」という。）の夏の増便を休止する報告である。

委員から意見を求めた。

【渡邊委員】

7月と8月だけ夜間運行していた理由はあるのか。利用人数が少ないだけで休止として何か問題はないか。

【センター開発】

この制度は、夏場であればこの時間帯の買い物に来る利用者も多いと思い始めたと言っている。実際は、非常に少ない状況である。

【奥村委員】

図書館がグループふじとうに移動したため、地域の方にとってそこまでの交通が不便と

という理由から、実証実験を実施し、高蔵寺ニュータウンセンター地区とグルッポふじとうをタクシーで無料運行した。その際、タクシーのイベントということでタクシー組合がお金を出して、利用者には無料にしていたが多少の利用者がいた。

最近、グルッポふじとうの利用者が増えてきており、循環バスでグルッポふじとうに向かう方もいる。循環バスもサンマルシェまでの買い物用のバスという認識だけでなく、地域住民の足になっている状況である。

このような事情があるので、休止ではなく路線変更なども検討してはどうか。

【磯部会長】

センター開発に発言を求めた。

【センター開発】

現在、循環バスは市からの補助もない状況で、運賃も非常に安い100円で14年間運行をしている。

社としても、運賃を上げることやダイヤの改正など検討したが、今回は苦渋の選択で休止をすることになった。

今後、経済状況の好転により採算性が良くなれば復活も視野に入れている。

【磯部会長】

非常に難しい課題であると思う。

センター開発が自主的に運行している路線である一方、地域住民の公共交通でもある。

センター開発もその認識のなかで判断したのではないか。

委員に意見を求めた。

【上井委員】

今回、いろいろ検討した中で、休止したことは理解した。

運行の休止に向けた周知はどうするか。

【センター開発】

ホームページやバス車内での周知は6月3日、バス停への周知は休止の1週間前にする予定である。

【磯部会長】

委員に意見を求めた。

【金田委員】

循環バスとかすがいシティバスの整合性は少し検討してほしい。

この循環バスの路線は高蔵寺ニュータウン以外に路線を持たなければ、衰退するのが自然の現象と思う。

ネオポリスの住民から意見を聞くと、ネオポリスの南側にはかすがいシティバスのバス停があるが、北側やそこから内津の方には、ほとんどバス路線がない。

これについて、市の方はどう考えているか。

センター開発には、循環バスの路線を拡大して集客をはかり、路線を維持するということに対して、見解を聞きたい。

【磯部会長】

事務局に発言を求めた。

【松浦補佐】

市内の交通空白地域の対応や昼間の高齢者の方々の買い物への対応について、これまで市はすべてをかすがいシティバスで賄おうとしていたが、市民からの移動に対する要望が、高齢化の進捗に伴い多様化してきた。

バスはその特性上、一定以上の大ききで比較的長い距離を走ること適していることから、多様化するニーズの中で、バスだけの対応は難しく、小さな乗り物などの活用も視野に入れながら、料金に対すること、新しいものを導入することの2つの実証実験の展開を考えている。

循環バスとかすがいシティバスのそれぞれのどのような役割を果たしているのか、この会議を通して整理していく。

【磯部会長】

センター開発に発言を求めた。

【センター開発】

循環バスは2ルートあるが、どちらも30分程度で回っている。

地域からの要望により、路線拡大を経済比較したことがあるが運賃100円では採算性が合わない。現在は、高蔵寺ニュータウン地区外への路線拡大は考えていない。

【磯部会長】

このような路線についての課題は地域公共交通網形成計画の作成に合わせ考えていく。

委員に発言を求めた。

【木野瀬委員】

バスには限界があり、皆さまも感じていることであると思う。

次の議題に行くためにも、新たなモビリティについて事務局は報告し、そちらの議論に移っていききたいので、バスの話をする際はセットで話をしてほしい。

その他

【米山主任】

資料6、及びOD調査の速報について報告した。

【磯部会長】

都市計画マスタープランは、都市計画を決める前の将来の姿を見据えたものである。その目標2で移動環境づくりを取り上げており、多様な交通手段を選択できる状態というのが都市計画的にも望ましい姿と言える。

この目標を受けて、地域公共交通網形成計画を作成するが、この多様な交通手段というのは課題となる。

【上井委員】

前回の会議で、多様な関係者の出席をどうするのかという話題があった。

バスとの乗り換えを利用しやすくするなど鉄道事業者とバス事業者の連携は重要であると思う。

【磯部会長】

鉄道の話もあるが、他にもいろいろな乗り物がある中で、報告に来たセンター開発も本会議の委員ではない。

いろいろな実証実験を進める中で、参加してもらえれば、より良い議論ができると思う。

【松浦補佐】

地域公共交通網形成計画を作成するにあたり、先日委託業者の選定会議を行い、間もなく受託者が決まる。

今後、受託者とともにおOD調査結果を整理し、詳細な情報提供を行いたいと考えている。

また、本会議の委員の選考については、地域公共交通網形成計画の作成に伴い各事業者の役割を明確にし、交通の課題の緊急度合いの高いものから、委員の意見を伺い検討したい。

【渡邊委員】

市内で完結する事業者は重要である。また、市外に跨ぐ市民の利用が多い鉄道事業者やバス事業者についても、今後、会議への参加を検討したい。

今回、循環バスを運行しているセンター開発は、買い物だけでなく地域の交通を支える重要な公共交通であるので、センター開発には本会議の委員として参加してもらってはどうか。

【磯部会長】

センター開発に意見を求めた。

【センター開発】

前向きに検討していきたい。

【磯部会長】

循環バスの課題を本会議で意見交換して、地域の方の交通をみんなで支えるような形を目指していきたい。

バス事業者やタクシー事業者もいるので、より良い方向性を考えていけるのではないかな。

【木野瀬委員】

このマスタープランにある「過度に自動車に依存せず」は、理想形であるが春日井市では不可能である。

具体目標にある「多様な交通手段が選べる環境の整備」これは、5年後、10年後の人口構成から考えると実現を目指さないといけない時代に来ているので、市として方針を示してほしい。

新たなモビリティについて、もっと議論して会議を活性化させたい。

【磯部会長】

市の地区ごとの特性を考え、地域公共交通網形成計画も長い視点で先を見据えた検討が必要である。

2025年からは団塊の世代が後期高齢者となるため、公共交通の大きな課題である。
公共交通は自家用車を控える人の受け皿としての役割も考えないといけない。

上記のとおり令和元年度第1回春日井市地域公共交通会議の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び出席者1人が署名及び押印する。

令和元年6月17日

会 長 磯部 友彦

署名人 金田 辰男